

# 見たまゝ思ひ付いたまゝ

佐藤生

## 一 修路工夫の小間割り制

修路工夫と云ふものがあつて自分の受持區域一大體二里乃至三里の道路の維持——主として不陸直し、砂利撒布路面、雜草の除却及び側溝の掃除等——に當つて居る。是が地方道路に於ける道路の維持方法であるが今までの経験に依るにはで修路工夫が設置してあるのだろうかと疑はしめる位に維持が甚だ不行届である。極端に言へば修路工夫と云ふ名義を與え土地の老朽工夫を救濟して居るやうにも思はれる。實際又有能工夫であつても二里、三里に亘る受持區域を完全に修理せよと命ずる方も無理はあるかも知れぬ。殊

に自動車交通の發達した今日では、昔と異つて著しく道路が荒される勤めても勵んでも從來の如き長い受持區域では到底完全の維持は出來ない。罪は寧ろ理事者の方に歸せねばならぬかも知れぬ。然し一面修路工夫たちも時代的と思の影響を受けて自己の義務に對し極めて不忠實となつたことや、土木監督員の監督宣しきを得ないことも確に其の原因の一部を爲して居るに相違ない。さればとて此の世智辛き時代相では修路工夫の定員を増加することは經費の關係上困難であらう。だから此の際は修路工夫や土木監督員には氣の毒の感もするけれども、各々其の能率を増進させる事に勉めて道路の維持を合理的に爲さしめる外はない。そ

れには修路工夫の日給制を廢し小間割り制又は工程給制に改めることである。即ち土木監督員に於て修理を要すべき箇所を指摘し、其の方法を指示して出來形に依て賃金を支拂ふ制度と改めたいのである。斯くすることに依て仕事の能率を増進し得ると同時に、其の修理は最も合理的に施行し得るから運輸交通經濟上誠に資すること尠くない。加ふるに修路工夫としては道路の維持修繕の學問を實地に修得し得る機會を與え、土木監督員としては其の受持區域内の交通情勢に曉通して、將來其の道路の改良に對し最も適切なる對策を講じ得る利益がある。

矧や斯る制度に依て修路工夫にも、土木監督員にも、勤勞の良風を養い得るに於ては、國民思想に及ぼす無形の効果は沒却することは出來ない大事なことの一つであらう。

## 二 並木の手入

馬子にも衣裳、道には並木、げに並木こそ道路の衣冠飾帶でなくてはならぬ。並木なき道路は恰も不具者の裸行す

るが如く其の醜體見るに忍びざるべし、吾等は飽く迄並木を愛護撫育せねばならぬ。然るに事志にたがひ世人の並木に對する餘りの冷淡さには誠に驚かざるを得ない。都市の並木は相當手入されて居るやうであるが地方道路の並木に到てはルンペニの頭髪のやうに亂れ偽善者的心のやうにひねくれて居る。偶々手入するを見れば沿道の作物に害ありとて殆ど全裸にされる位に小枝を切り拂はれるかと思へば又まゝ子いぢめに似てひそかに並木敷の深耕を敢てして暴風に吹き倒さるゝを俟て之を枯損木として二束三文に賣り拂はれる事を希ぶものあり如何に心なき振舞であらうか。

## 三 道 路 標 識

道路法の施行以來道路標識が稍普及したことは誠に喜ばしい事柄の一つである。是は是非共今後尙普及に勉めねばなるまい。ところが道路標識の建設してある位置に就て見るに形に囚はれ實を顧みぬものがあるやうである。例へば市街地に於て他の道路占用物の雜然と立て居る間に道路標

識が雜居されて一向通行者の注意を惹かないものがあるかと思へば都市の曲り角を標識したものが立てられて居る。

交通頻繁なる都市内に在りては靜的障害よりも寧ろ動的障害に左右される場合が多いのであるから道路標識を設けても其効果は尠ない。即ち交通整理に俟たなければならぬものであるから交通整理の勵行に勉める事としたいものである。一體道路標識は高速交通車輛に對して其の効果を充分に發揮し得るもので、緩速交通車輛の爲めには無用の長物に過ぎない、故に交通標識は動的障害の少ない地方道路上に於ける交通の安全、輸送の能率の増進の爲め適所に之を設くべきであるが往々にして左程危険とも思はれぬ坂路や曲線路に是等標識を建設するを見る場合がある斯くてはエソツップ物語の羊番の如く一度あざむかれたる運転手は次の本當に危險な箇所を輕視して却て危険を起すことがある。

#### 四 撒水夫の常設

修路工夫が配置せられて居ることは全國何れの縣に於て

も同様であるが、未だ地方の道路に撒水夫を常置された例は聞たことがない。鋪装のない乾いた道路を自動車が驅た後を御覽なさい、恰も飛行機の煙幕のやうな砂煙を立て後續車は殆ど前視は許さない、又沿道はセメント工場の如く汚されて居る。私は田舎を旅行して常に思ふことは、よくも沿道民があの不衛生極まる飛塵に對して、文句を言はぬことを寧ろ不思議に思て居る。一日も速に斯る弊を除却せねばならぬ。それには理想としては簡易鋪装又は防塵工事を普及することが望ましい。けれども斯る工法を全國の道路に一時に施行することは困難であらうから、せめて鋪装の行き亘る時期迄必要に應じて、自動車交通の相當多い道路には撒水夫を配置して撒水に勉めて欲しい。撒水トラックを用ひて行へば更に結構である。

#### 五 橋梁高欄の親柱

近來 ハイエビューナフヒケーション 道路の美化と云ふ問題は世界を通じて、識者間に唱導せられ其の機運に向いつゝあることは、先頃本誌

で私が紹介した通りである。橋梁其の他の道路工作物の美的完成は特に私の望むところである、勿論私は美術家でないでの彼は批評する資格はないのだけれども、たゞ私が見て感じたまゝのことを一、二拾いあげれば、是れは下路構橋の大きなエンドポストの直ぐ前に堂々たる石塔のやうな高欄の親柱を建てゝあるものの如きは、如何にも構析と不懸合でみつともない。あれは是非やめて欲しい。

## 六 名木の愛護

鹿児島國道改良工事を見ての事であるが、只今改良工事

中の箇所は鹿児島、重富間の錦江灣に沿ふた如何にも風光明媚な海岸に沿た國道である。鹿児島では亞熱帶植物が相當繁茂して居るので、他國の人々には珍らしく感するものが澤山あるが、丁度此の改修國道沿に數百年を経たと思はれる榕樹？が丁々として天に聳へ、錦江の灣に映じ旅人の目を慰めて居るものがある。然るに改良工事では道路幅員の擴張の爲め、此の名木の根本を半分位削り取らねば所定

の幅員を保てぬことゝなつて居る、半分根本を削り取らるれば、恐らくこの名木は枯死するのであるまいか、思ふに今日の交通情勢では、譬へ此の部分の道路幅員が幾分狭いからとて交通上大した支障はない筈だ、何とかして是は助けて欲しい。こんな例は靜岡縣の安倍川橋東詰の柳もうであつた。又兵庫縣の神明國道の舞子の松の場合もそうであつた。名木などはたといそれが史蹟名所天然記念物法の保護を受くる資格のないものであつても、人力に依て造り出せないものであるから是非共愛護して欲しい。

## 七 橋梁の縦勾配

兩橋臺の天端を水平に据えて橋梁は水平に架け渡すのが昔からの慣習である。橋梁の前後取付道路が水平區間であれば異論はない。又相當長い橋であれば仕方がない。然し架け渡し橋の如き短き橋梁が道路の勾配線中にある場合であれば、必ずしも兩橋臺を水平とせず橋面は道路の縦勾配に合せて欲しい。勾配線中に短かい橋梁の爲水平區間を差

し挿めば縦勾配の度々の變化の爲め自動車の如き高速交通には車が飛び上つて甚だ不愉快である。溝橋の場合に水路の關係上特に著しく扛上して造たるものを見受けるが、是なども適當の縦断曲線を挿入して自動車が圓滑の運轉の出來るやうにして欲しい。然し暗渠の場合では溝蓋と取付道路との間に段が出来勝であつて、其がため自動車は茲を通過するのに速力を著しく減さねばならぬのも不都合である。

## 八 石造拱橋の手入

九州特に鹿兒島縣には昔の石造拱橋が今日尙澤山残て居る、先日鹿兒島縣に行つた時縣の内務部長の話では此頃自動車のため之の拱橋が傷で困る何とかして架換えねばなるまいとこほして居た、思ふに此地方の拱橋は拱矢の高い半圓形のものが多い、如何にも太鼓橋の名に適しいものである拱矢が高いから自然クラウンの所の土冠が割合に薄い、其で重い自動車が通行するやうになつてから、自動車の活荷重の衝撃が非常の強度にてクラウンに懸つて來るので拱

が傷むのではあるまいか、若しこんな原因だとすれば衝撃を少なくする爲拱矢の上の盛土厚を相當に増したなれば防ぎ得るのではあるまいか、然し斯くすれば橋梁の縦勾配を急にしない限りは勢い橋梁の前後取付道路をも相當扛上せねばなるまい廢た譯でもないから、こんな事の原因のみで取り毀してしまふのは何だかもつたないやうな感じがす。

## 九 防禦壁の普及

自動車が崖から落ちて死傷者を生じる痛々しい事實は殆ど毎日の新聞に見受ける。落ちて死傷者を生じない迄も實際崖地を自動車で旅行するときは冷々として、折角のよい風景を悉々たる氣持で眺めるこの出來ない危険の道路が澤山ある。此頃斯る不安を少なくする爲め胸壁又は防禦壁の築造に勉めて居るのは誠に結構のことである。然し折角の防禦壁が何だか頼にならぬ構造のものを時々見受ける。折角築造するものであれば安心の出來るものにして欲しい。

も崖地である限りは防禦壁を設けて安心して旅行し得るやうにして欲しい。交通機關の最も大切な第一要件は安全と云ふことにあるのだから。

## 一一步道鋪装の目地

今後の道路は鋪装した道路でなければ道路と云ひたくない。鋪装しない道路は道路素地とでも謂ひたい。最近に至て稍道路らしい道路が出来て來たやうであるが、時として車道は鋪装されて立派に造られて居るので、歩道には鋪装のない道路の素地とも謂ふべき變なものを時々見受ける。車道を鋪装するに必要ありと同様に、歩道も亦鋪装せねばならぬ。苟も歩車道の區別ある位の道路であるなれば、交通量も相當多い道路と看做さねばならぬ。歩道が鋪装してなければ、歩行者は自然歩き易い車道に浸入して來ることは人情である。それでは歩道を設けた趣旨を没却する。交通は混雜を來し事故は頻發し交通の能率は擧がらぬ。寧ろ歩道の鋪装を先にすることが必要ではあるまいか、歩行者

は水溜りを蛙の如く飛び渡る醜體を演じねばならぬことがある。水溜の出來ぬやうにするには歩道の横斷勾配を急にすれば防げることであるが急に失すれば歩きにくい、そこで勾配を急にせずして水溜の出來ないやうな工夫はあるまいか、私の思い付た方法は目地を稍廣く深くし且つ石垣の谷積の目地のやうに進む方向に斜な目地を造つて見たい。かくすれば路面の水を目地に依て側溝に排水する能力を増すことが出来るし又足駄をはいた人にも目地に歯がはまる心配もない。然し此の方法を行ふためには、歩車道の境界石に添つた小さな溝を其の歩道寄に設け、目地から來た水流を速に側溝に導くやうな新らしい企もせねばなるまい。實際雨天の日にペチャ／＼歩かねばならぬ歩行者の難澁を何等かの名案に依て救濟して欲しいものである。